

平戸市 夜間景観基本計画 (案)

令和6年7月

平戸市

目次

第1章 はじめに

- 1-1. 平戸市における夜間景観へのとりくみの背景 1～4
- 1-2. 夜間景観基本計画の目的 5
- 1-3. 夜間景観基本計画の位置付け 6
- 1-4. 夜間景観基本計画の対象エリア 7

第2章 平戸市の夜間景観の現状と課題

- 2-1. 主たるランドマークと観光ポイントの夜間景観の現状 . . 8
- 2-2. 眺望景観の現状 9
- 2-3. 公園・ポケットパークの現状 10
- 2-4. まちなみと商業エリアの現状 11～13
- 2-5. 歩行空間の現状 14～15
- 2-6. 路地の現状 16
- 2-7. 道路照明の現状 17～18
- 2-8. 河川景観の現状 19
- 2-9. 平戸市の夜間景観の課題 20

第3章 平戸市における夜間景観基本計画の方針

- 3-1. コンセプト 21
- 3-2. 夜間景観基本計画の方針 22
- 3-3. 都市照明に求められるあかりの品質と
照明計画のポイント 23
- 3-4. 重点エリアおよび路地の設定 24

第4章 エリア別夜間景観形成の方針

- 4-1. 7つの夜間景観形成の方針 25
- 4-2. 平戸湾周辺の夜間景観形成 26～32
- 4-3. 主要観光ポイントの夜間景観形成 33～37
- 4-4. 平戸城下旧町地区の夜間景観形成 38～44
- 4-5. 路地の安全安心の確保 45
- 4-6. 主要道路環境の改善 46～47
- 4-7. 河川エリアの夜間景観改善 48～51
- 4-8. 民間の取組による夜景ランドマークの拡充 52

1-1. 平戸市における夜間景観へのとりくみの背景

1. 都市照明の基本的な考え方

人々のライフスタイルの変化などにより、今日では日没後の良好な景観形成は非常に重要となっています。ただ明るさを確保するための照明整備だけではなく、美しく風格のある都市形成や快適で健やかな住環境づくりなど、良質で場所に合った夜間景観形成が求められています。

例えば公園などの公共空間では、環境の魅力づくりと共に夜間の利活用を支える手法として、観光の視点では地域の魅力を際立たせ、誘客や滞在快適性を高める手段として、まちづくりにおいては地域への愛着やシビックプライドを担う景観魅力の更新手段としてなど、国内外で様々な計画が行われ実装されています。また、防災においても視覚情報としての照明効果が注目されるなど、屋外環境における「あかり」の役割はますます大切なものとなっています。

一方、都市部での無計画な発光物の乱立や映像装置による過剰な照明、伝統的なまちなみにそぐわない色温度や明るさ、電柱の林立、自然環境を鑑みない投光など、景観と共に環境配慮や省エネルギーの観点でも様々な問題点が指摘されています。



【橋梁群のライトアップ】
テムズ川にかかる橋梁のライトアップで河川景観を形成。2020年には全15橋を新たな照明デザインに着手するなど積極的な夜間景観づくりが行われている（ロンドン）



【港湾再開発】
港湾を囲む各エリアで大規模な建築・ランドスケープデザイン・夜間景観が整備されている。（オスロ）



【夜間景観形成実施計画】
ウォーターフロントを中心に2010年から夜間景観形成に取り組んでおり、ランドスケープと夜間景観の改修で多数のにぎわいを獲得したメリケンパーク（神戸市）



【文化財・城跡を活かす】
歴史的なランドスケープを照明によって観光資源として再生しようという取り組みは各地で始まっている（鳥取城跡）

2. 観光地における夜間景観形成の重要性

今日の観光都市においては、宿泊や飲食などにつながる夜間景観形成やナイトエコノミーを喚起する夜間・早朝の観光施策が非常に重要となっています。

また、インターネットを介した個人旅行の普及など旅行形態の変化によって、観光地には映像・画像で地域魅力を発信できる「絵になる夜景」の創出と確立が不可欠になってきました。そういった背景と長寿命で省エネルギーなLEDの登場と普及により、今日では多くの観光地がその夜間景観魅力の磨き上げに着手し、まちの個性を際立たせる美しい夜景による誘客と、住み営むシビックプライドの醸成に取り組んでいます。

日本最古の国際貿易都市である平戸市は、歴史と豊かな自然環境に恵まれた古くからの観光都市です。本市では平戸城や平戸ザビエル記念教会など主たるランドマークのライトアップ等を実施し、夜景魅力の創出に着手していますが、「歴史を活かした歩いて楽しいまちづくり」のための夜の魅力度アップや宿泊目的につながる「絵になる夜景」の創出はこれから取り組むべき課題ともいえます。



草津温泉（群馬県草津市）



城崎温泉（兵庫県豊岡市）



水木しげるロード（鳥取県境港市）



長門湯本温泉（山口県長門市）

3. めざすべき夜間景観とその効果

歴史ある観光地や豊かな営みを続けてきた地方都市には、既に様々な都市魅力があります。しかしながら、それらのほとんどが意図せずに活かされていないか、もしくは更新されずに数十年前と同じ環境が続いています。

多くの都市では、照明整備に関する公共のルールや方針が更新されておらず、夜間景観形成の理念さえもないのが一般的でしたが、LEDの普及と公共空間の利活用に関する考え方の変化により、多くの自治体で夜間景観形成の取組みが始まっています。

美しい港湾風景や歴史的な遺構があり、修景されたまちなみがある平戸城下旧町地区でも、夜間はその多くが活かされていないため、本計画によって修景家屋の利活用による観光資源としての「美しい夜景」はもとより、ウォーキングなど市民の夜の活動を支える快適な夜間景観形成の実現をめざします。

不安な場所から →



安全安心な場所へ



- ・暖かな色温度
- ・樹木ライトアップによる安心感
- ・低位置の間接照明による歩行の安心感
- ・まぶしさの無い落ち着いた環境
- ・暗がりの払しょく

樹木ライトアップは、鉛直面の明るさ感を高め、安心感を創出します

暗く寂しい水辺 →



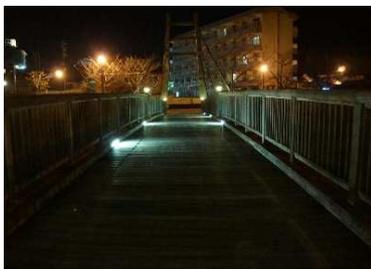
本来の魅力が活かされた水辺



- ・鉛直面の明るさ感
- ・元からある場所の個性を磨く
- ・暗がりの払しょく
- ・まぶしさの無い落ち着いた環境

白い拡散光（水銀灯）だけの環境から、あたたかな間接照明で構成された環境へ更新した例

見えないランドマーク →



誇れるランドマーク



- ・暖かな色温度
- ・鉛直面の明るさ感
- ・元からある場所の個性を磨く
- ・暗がりの払しょく
- ・まぶしさの無い落ち着いた環境
- ・観光地にふさわしい美しさ

最低限の明るさを確保する照明から、観光地にふさわしい明るさ感と美的価値を創出した例

4. 平戸市でのこれまでの景観づくり

平戸市では平戸城下旧町地区において、2005(平成17)年度から「街なみ環境整備事業」を実施し、地区施設の整備と町屋の修景(改修)の両輪で、良好なまちなみ整備を図ってきました。

それにより、168棟の町屋の修景等が完了し、他に類の無い美しいまちなみ景観の整備が実現しています。

この美しいまちなみ景観を今後も維持し、まちのブランド力をさらに高め、国内屈指の観光地として再生していくためにも、平戸城下旧町地区の夜間景観形成は重要となります。

◆街なみ環境整備事業の基本理念

計画の基本理念
歴史を活かした歩いて楽しいまちづくり

平戸市の中心市街地は城下町時代の歴史をもち、古くから商店が建ち並んでいたところである。市街地は端から端まで歩いてわずか30分程度の広さだが、その間に平戸の歴史、産業、自然、文化といった数多くの魅力溢れる資源に触れることができる。その市街地の「歴史を活かし」、商店街全体を「歩いて楽しいまち」として演出し、平戸市民、そして観光客が、歩きたくなる、再び訪れたいまちとなるよう「歴史を活かした歩いて楽しいまちづくり」を基本理念とする。

◆街なみ環境整備事業の実績

●崎方町本通り



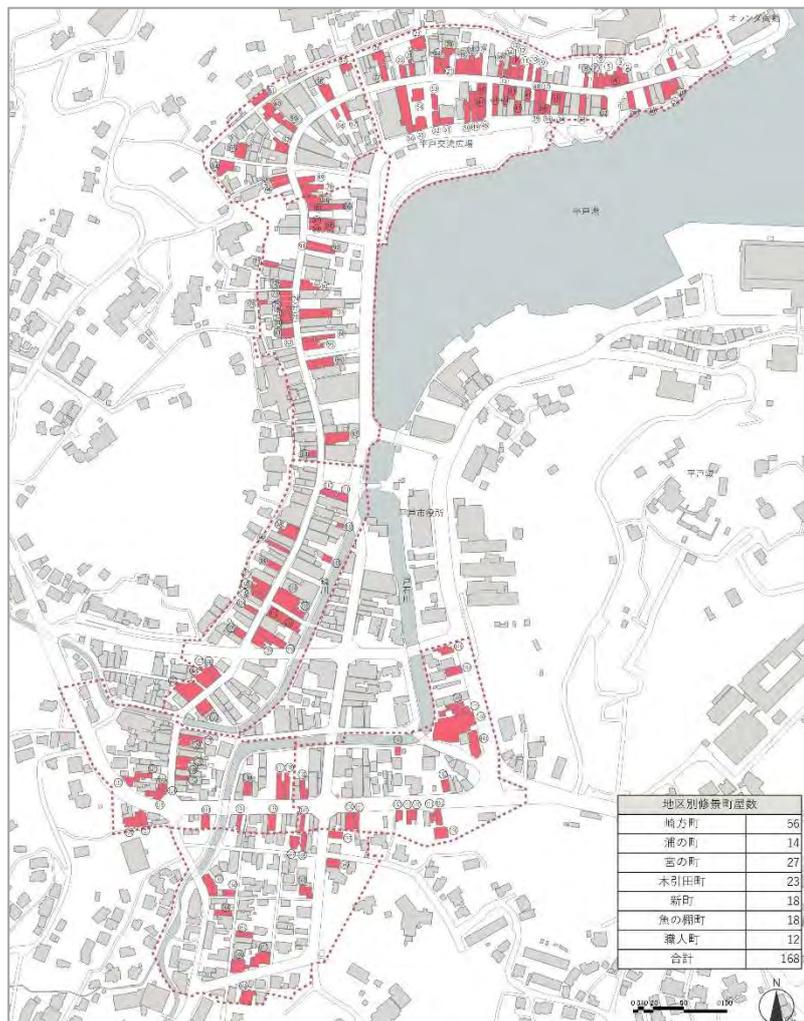
修景前



計画



修景後



平戸城下旧町地区街なみ環境指針策定業務委託報告書より引用

1-2. 夜間景観基本計画の目的

1. 目的

本計画は、平戸城下旧町地区において「夜間景観」に着目し、良好な夜間景観形成とあかりを活かした観光まちづくりを通じて地域の魅力・価値を高めることを目指し、戦略的に夜間景観の向上を図るための照明の基本的な考え方と方針を示すことを目的としています。

1) 平戸らしさを活かし、市民が誇れる夜間景観を形成する

平戸城下旧町地区とその周辺には、城や教会などの建築物、特徴のある土木構造物や街路、15年にわたって再生してきたまちなみなど、独自の景観資源が数多くあります。

また、周囲を山に囲まれた平戸ならではの港の眺望や、玄界灘につながる海の景観など多様な景観が見られます。

本計画では、そういった平戸城下旧町地区ならではの景観魅力・文化的資源を、夜間の景観資源として視覚化し、市民の方々が住まい営む誇りとなるような夜間景観形成をめざします。

2) 市民が安全・安心に暮らせる環境を整える

現在の平戸城下旧町地区とその周辺においては、照明の無い暗い道や公園などが散見されます。

本計画では、市民の日常の安全安心の確保を念頭に、道路・公園・港湾緑地・遊歩道やポケットパークなどの夜間の環境を、利活用の頻度や観光まちづくりの視点から安全・安心な環境へと改善することを計画します。

3) 宿泊観光・ナイトエコノミーに寄与する絵になる夜間景観を形成する

宿泊動機につながる魅力的な夜景の創出や、夕刻から夜間にかけてのそぞろ歩きを誘発するためのあかりの配置計画は、現在の観光まちづくりにとって非常に重要です。

本計画では、平戸城下旧町地区ならではの景観魅力・文化的資源を夜間の景観資源として視覚化し、国内唯一無二の「絵になる夜景」の創出によって、平戸市のブランド価値向上と感度の高い情報発信、新たな宿泊観光や市内飲食店利用の活性化などにつなげていきます。

4) 環境に配慮した照明計画の実現

まちを安全安心で快適にすると同時に、省エネルギーな光源や効率的な照明計画、時間ごとの調光制御などに取組み、エネルギー効率と美的価値創出のバランスの取れた夜間景観形成ができるような計画を行います。

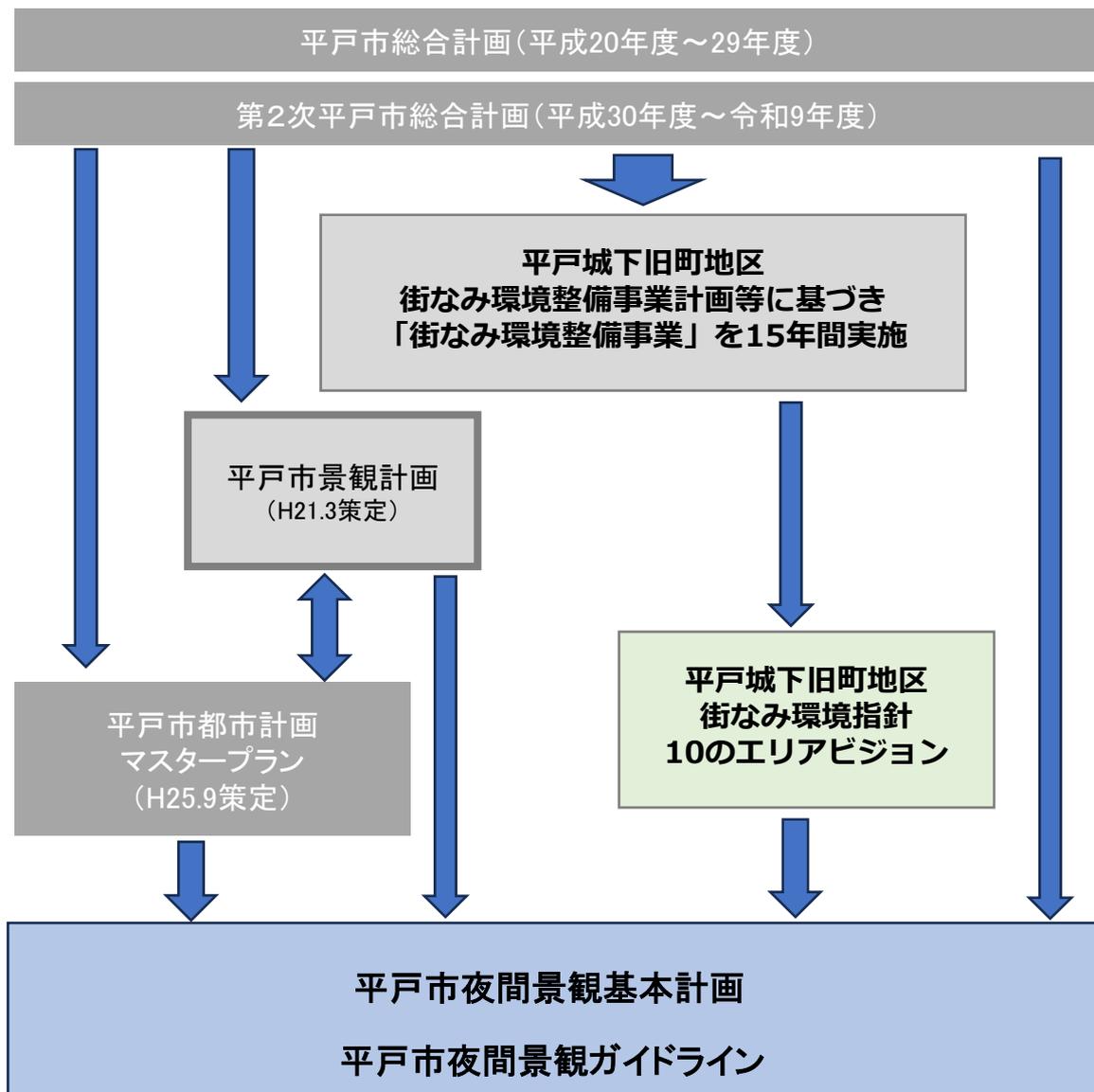
1-3. 夜間景観基本計画の位置付け

1. 位置付け

平戸城下旧町地区の魅力ある夜間景観の形成は、平戸市の景観形成に関する基本的な方針を定めた平戸市景観計画（平成21年3月策定）を上位計画とし、そこで示される地域の景観づくりの方針に基づき、それらを推進するための重要な取り組みの一つと位置づけます。

また、平戸市で掲げている「歴史を活かした歩いて楽しいまちづくり」の実現に向けた実施計画として位置付けます。

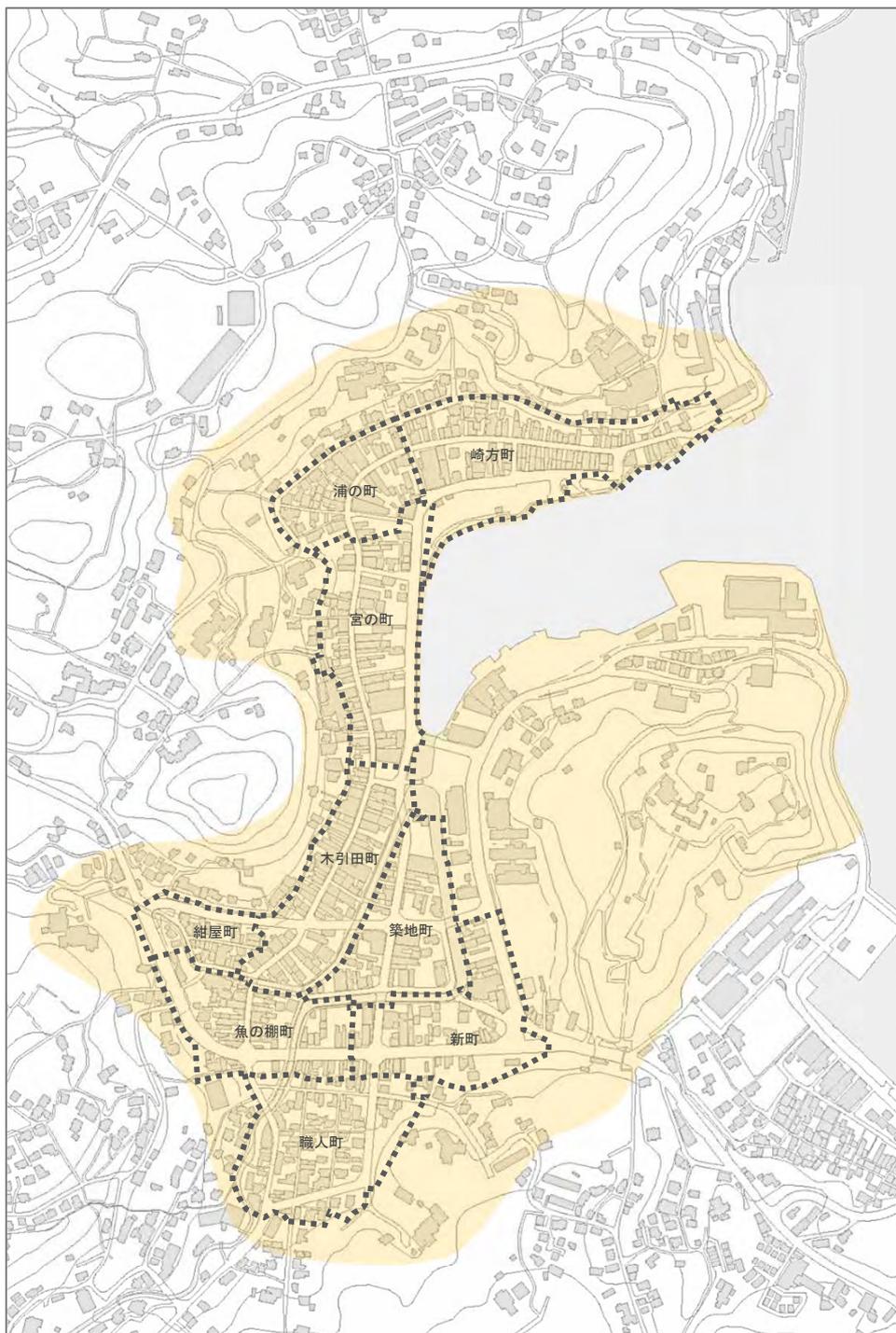
本計画では、上位計画や関連計画、各種関連施策等との連携を図りながら、平戸城下旧町地区等における光環境の方向性を示し、継続的な平戸らしい魅力ある夜間景観を形成するためのポイントを示すこととしています。



1-4. 夜間景観基本計画の対象エリア

1. 対象エリア

本計画の対象エリアは、おおむね市内外からの来訪者が多く、滞在観光の促進に向けてより効果が高いと思われる平戸湾を囲むエリアと平戸城下旧町地区において、2005（平成17）年度から2019（令和元）年度までの15年間、街なみ環境整備事業を実施してきた崎方町、浦の町、宮の町、木引田町、築地町、紺屋町、新町、魚の棚町、職人町及びその周辺エリアとします。



第2章 平戸市の夜間景観の現状と課題

2-1. 主たるランドマークと観光ポイントの夜間景観の現状

平戸城



平戸ザビエル記念教会



平戸オランダ商館



寺院と教会の見える道



松浦史料博物館



オランダ堀



2-2. 眺望景観の現状

崎方公園下遊歩道からの眺望



市道平戸志々伎線からの眺望



平戸市役所第2駐車場からの眺望



平戸港交流広場からの眺望



亀岡橋からの眺望



2-3. 公園・ポケットパークの現状

崎方公園



崎方公園下遊歩道



オランダ公園



平戸温泉うで湯あし湯



平戸港交流広場



平戸港交流広場



2-4. まちなみと商業エリアの現状①

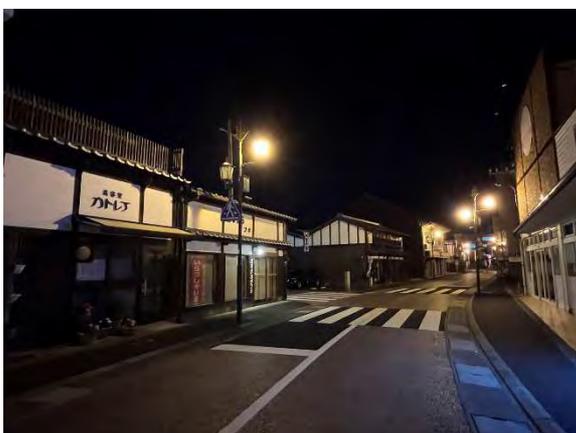
県道田ノ浦平戸港線（崎方町周辺）



県道田ノ浦平戸港線（浦の町周辺）



県道田ノ浦平戸港線（宮の町周辺）



2-4. まちなみと商業エリアの現状②

県道田ノ浦平戸港線（木引田町周辺）



県道田ノ浦平戸港線（魚の棚町周辺）



2-4. まちなみと商業エリアの現状③

市道亀岡・新町線（新町周辺）



国道383号、市道亀岡・新町線（新町周辺）



市道平戸志々伎線（築地町周辺）



市道職人町二号線（職人町周辺）



2-5. 歩行空間の現状①

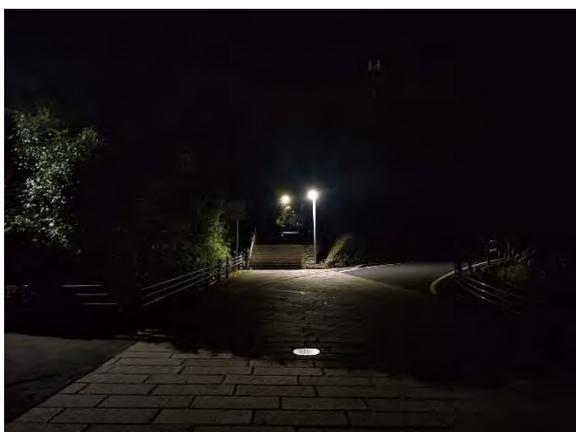
市道松浦資料館線（歴史の道）



市道崎方浦の町線（大ソテツ通り）



市道御館線（旧保健所跡地付近）



2-5. 歩行空間の現状②

崎方公園下遊歩道（仮称ハーバービューロード）



2-6. 路地の現状

崎方町



2-7. 道路照明の現状①

市道平戸志々伎線（海岸通り）



平戸市観光交通ターミナル前



国道383号（大手の坂前交差点）



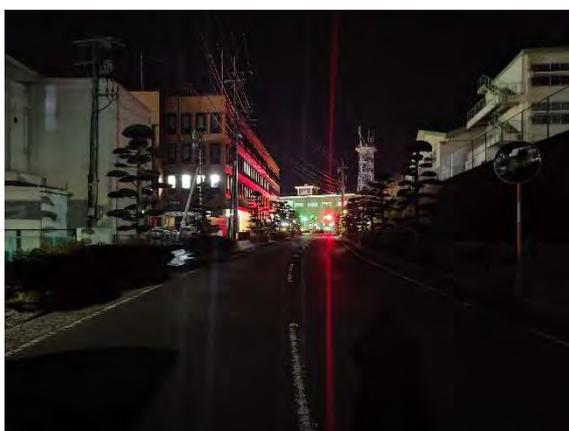
市道亀岡・新町線



市道土肥町線



市道土肥町線



2-7. 道路照明の現状②

市道臨港線（亀岡橋）



市道臨港線



市道平戸・志々伎線



市道亀岡・新町線



市道亀岡上町線



市道亀岡・木引田線



2-8. 河川景観の現状

幸橋付近



天神橋付近



昭和橋付近



富田橋付近



鏡川橋付近



大手橋付近



2-9. 平戸市の夜間景観の課題

本市における夜間景観の現状からは、以下の内容が読み取れます。

- ①平戸城及び平戸オランダ商館、平戸ザビエル記念教会は常設のライトアップが実施されており、夜間景観形成に寄与している。
- ②オランダ堀や寺院と教会の見える道など日中の観光ポイントの多くが、夜間には照明が無く、危険な暗がりとなっている。
また、彫刻や工作物などへのライトアップが無く、夜間にそぞろ歩きを楽しめる雰囲気は無い。
- ③眺望夜景は意識されておらず、良好な眺望夜景となっていない。
特に、海岸通りの街路灯の白色グレア、平戸城側の水際景観の改善が望まれる。
また、眺望を楽しめる崎方公園につながる山側の道は、危険な暗がりとなっており来街者が眺望を楽しむことは難しい。
- ④平戸湾水際の地上からは、良好な港湾夜景は感じられず（平戸城への見上げ除く）たたずめる印象は希薄である。座れる環境も少ない。
東西南それぞれの視点場からのビュー及び視点場付近のあかりの改善が望まれる。
- ⑤主たる道路環境は一般的であり、車両の通行に支障のある暗がりはないが、徒歩での歩行には不安を感じる暗がりが散見される。
また、全幹線道路域において観光地魅力に乏しい。
- ⑥路地や山側の園路には照明が不足しており、危険な暗がりが散見される。
- ⑦崎方公園やオランダ公園など主たる公園は暗く、夜間には使用できない。
平戸港交流広場は付近からの明るさは多少あるが、魅力的な水辺とはなっていない。
- ⑧平戸城下旧町地区の県道田ノ浦平戸港線の道路照明は明るすぎ、まぶしさ（グレア）も高く、まちなみの印象を阻害しており改善が望ましい。
- ⑨崎方町をはじめとする平戸城下旧町地区では「ほのあかり事業」によって、民間修景町屋のライトアップ整備が進んでいるが、街路灯のグレアが高く建物魅力を阻害している。
- ⑩エリア全域の照明色温度は、ナトリウム灯(2200K)、白色(LED・水銀)(5000K)、電球色(3000K)が入り混じっており観光地としての統一感に欠ける。歴史のある情緒的な観光地として電球色での統一が望ましい。
- ⑪河川付近の歩道や橋梁は暗がりが多くなっており、安全安心の点からも改善が望まれる。

第3章 平戸市における夜間景観基本計画の方針

3-1. コンセプト

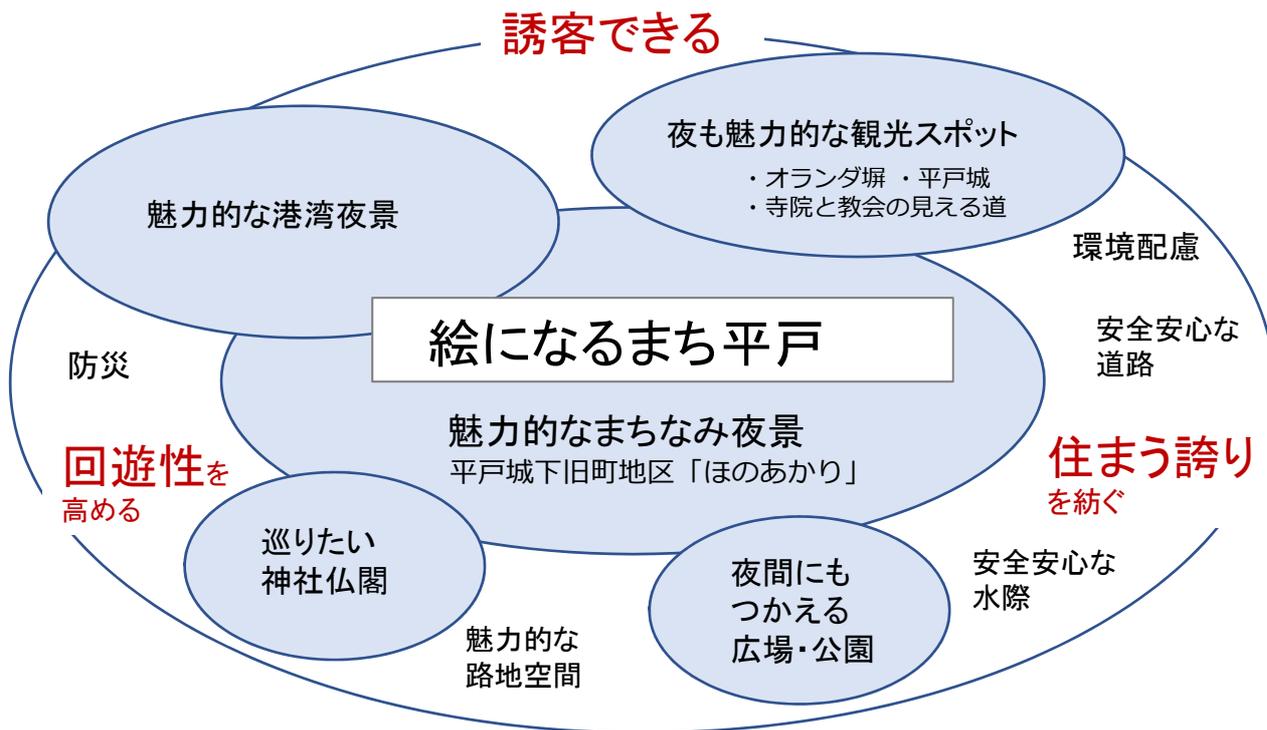
観光まちづくりの視点で各所の夜間景観を検討し、地域の再ブランディングに貢献する『他に類の無い夜景のまちづくり』をめざします。

ステートメント（宣言） **絵になるまち平戸**

夜間景観づくりのコンセプト

**平戸らしさを磨き上げ
安全安心で誇りをもって住まうことができ
夜景が誘客の媒体となる
新たな観光・文化都市平戸
をめざします**

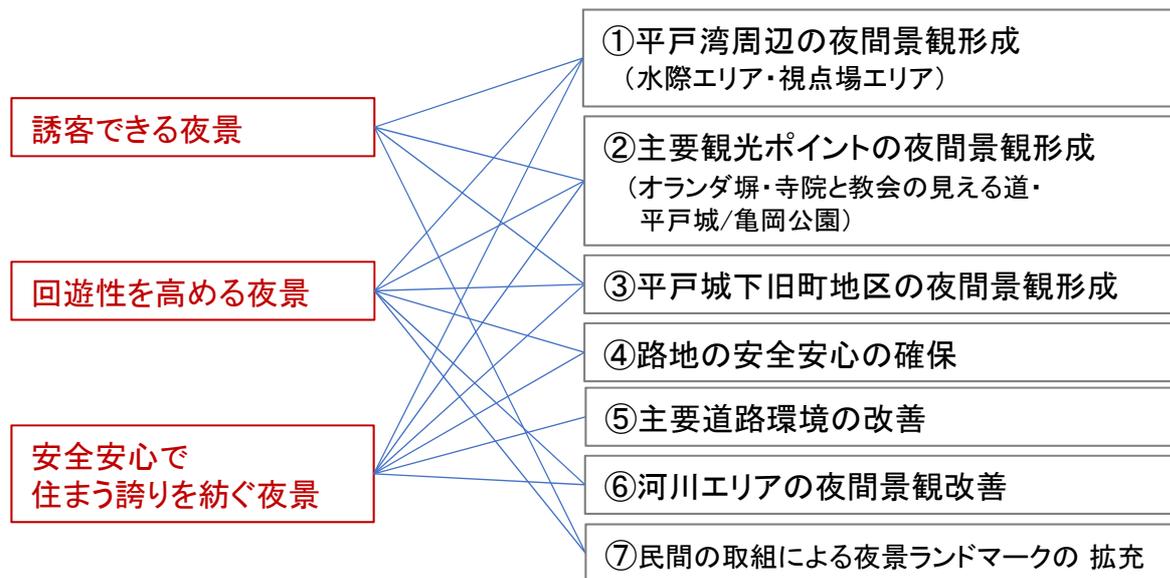
あかりの指針



3-2. 夜間景観基本計画の方針

「平戸らしさを磨き上げ、安全安心で誇りをもって住まうことができ、夜景が誘客の媒体となる新たな観光・文化都市平戸」の実現に向け、現状の調査、上位計画から導き出される方針、社会における観光まちづくりの方向性及び令和4年度から5年度に実施された各種アンケート及び住民ワークショップにおける市民・地域の意見をもとに以下のように7つの方針を設定します。

『絵になるまち平戸』3つの指針と7つの方針



3-3 都市照明に求められるあかりの品質と照明計画のポイント

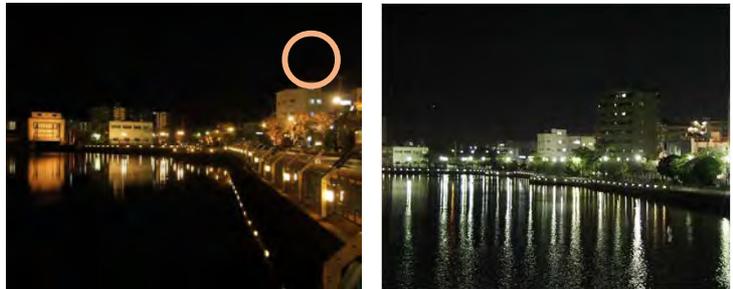
今日の都市照明においては、以下のような「あかりの品質」が求められています

- ①あかりの色温度・・・・・・・・・・観光地・住宅地には暖かな「電球色」が最適です
- ②鉛直面の明るさ感が重要・・・・壁や樹木を照らすことは大きな明るさ感を創出します
- ③照明の配光を考える・・・・・・・・不快なまぶしさや夜空に拡散する光を抑制しましょう
- ④省エネルギー・・・・・・・・・・LED光源の利用、明るさの制御などが簡単にできます
- ⑤色彩の氾濫をふせぐ・・・・・・・・まちなみにふさわしい色彩の選択は重要です
- ⑥緑を活かす・・・・・・・・・・照らされた豊かな緑は、安全安心感をつくります
- ⑦点灯時間の管理・・・・・・・・・・時間による点灯管理は環境配慮の点で重要です

これら原則のうち、地域で良い夜間景観を実現するためには、下記の①～③の3つが特に重要です。

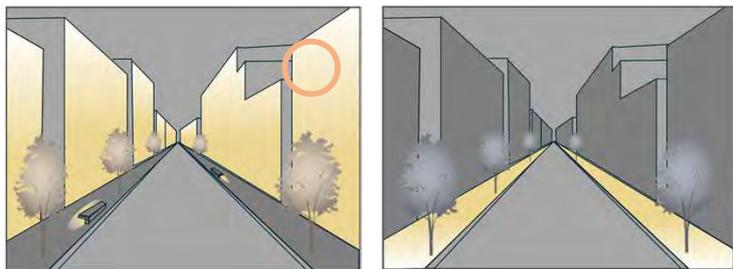
①最適な色温度

色温度とは光の色味の度合いのことをいいます。色温度が高いと白く冷たい光の色になり、低いと黄色く暖かい光の色になります。



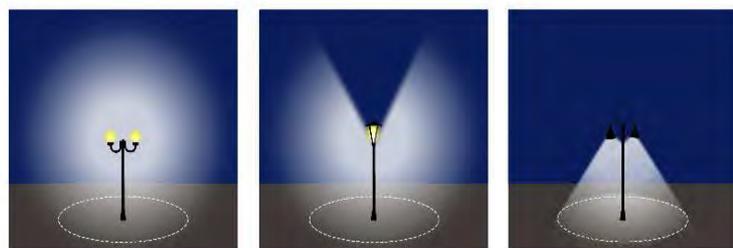
②鉛直面の輝度を重視する

同じ光の量でも、床面にあてるより、壁面にあてるほうが明るく感じます。



③グレアフリー

グレアとは、目にまぶしさを感じる不快な状態をいいます。また、グレアがあると、それより強い光しか明るく感じなくなり、その他のものは暗く見えるようになります。

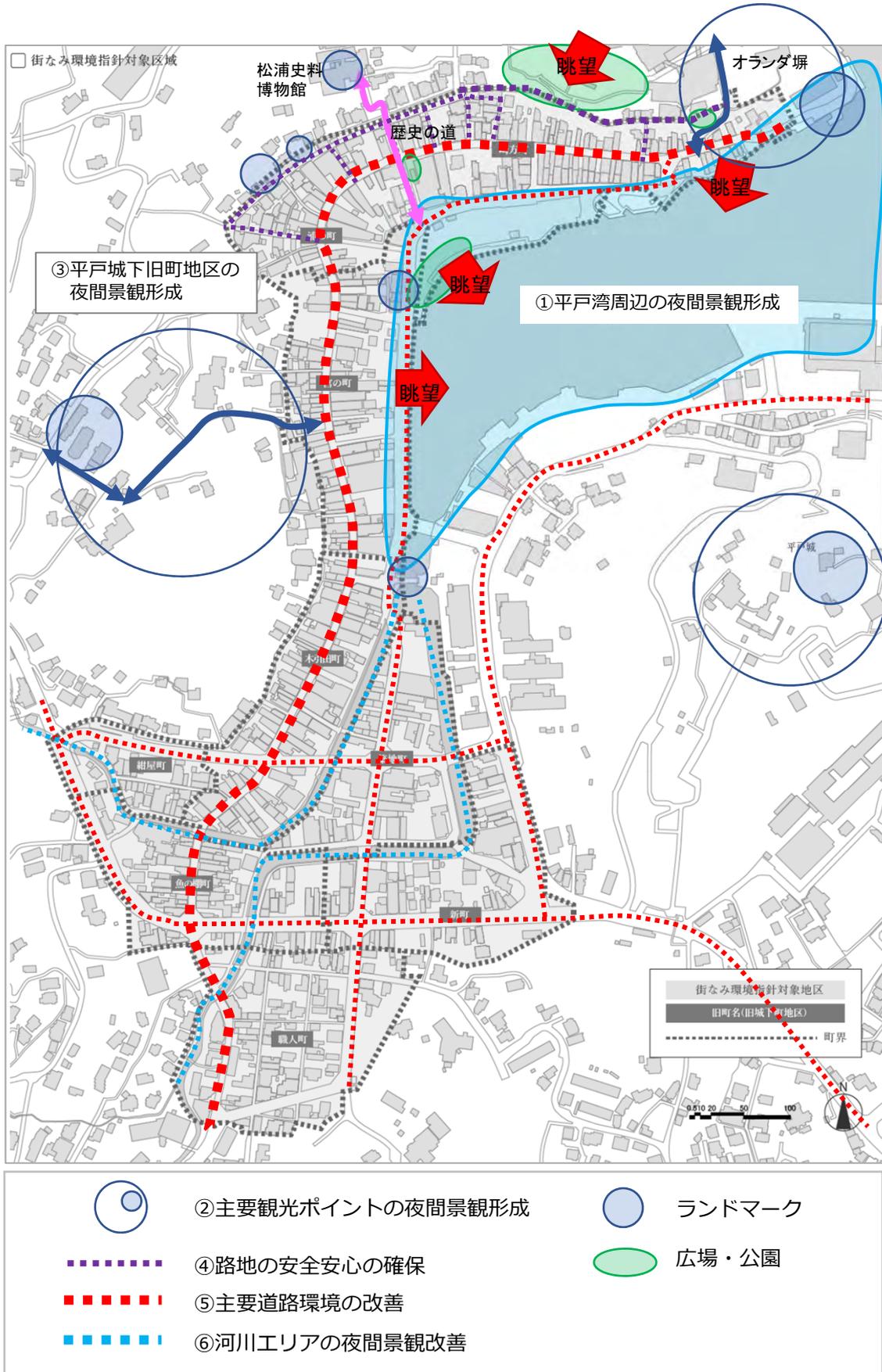


まぶしく、エネルギーロスが高い

歩行に必要な十分な明るさ

3-4. 重点エリアおよび路地の設定

◆本計画における7つの方針に示されたエリアおよび路地の概要



第4章 エリア別 夜間景観形成の方針

4-1. 7つの夜間景観形成の方針

①平戸湾周辺の夜間景観形成

- ・平戸らしさを象徴する眺望夜景を磨きあげ、目的地となる風景創出をめざします。
- ・水際の暗がりを払しょくし、市民にとって安全安心な水辺環境形成に努めます。
- ・港湾夜景を眺められる場所の環境形成に努めます。

②主要観光ポイントの夜間景観形成

- ・オランダ堀エリアは、堀の魅力を輝かせ、夜間にも散策ができる環境形成に努めます。
- ・寺院と教会の見える道エリアは周辺民間施設と連携しながら夜間にも安全安心に散策ができる魅力的なエリア形成を目指します。
- ・崎方公園の安全安心をたかめます。

③平戸城下旧町地区の夜間景観形成(含ほのあかり)

- ・公民連携の取組みで修景された町屋の美しい夜間景観形成に努めます。
- ・修景町屋のライトアップがひきたつ公共照明をめざします。
- ・路地や歴史の道など周辺施設の夜間景観を整え、めぐる楽しさの創出に努めます。

④路地の安全安心の確保

- ・路地の暗がりを払しょくし、市民が日常的に心地よく暮らせる環境形成に努めます。
- ・平戸らしい情緒的な陰影を大切にします。

⑤主要道路環境の改善

- ・暗がりを払しょくし、歩行者にとっても安全安心な道路をめざします。
- ・来街者の期待に応える観光地らしさ(平戸らしさ)の感じられる道路環境をめざします。

⑥河川エリアの夜間景観改善

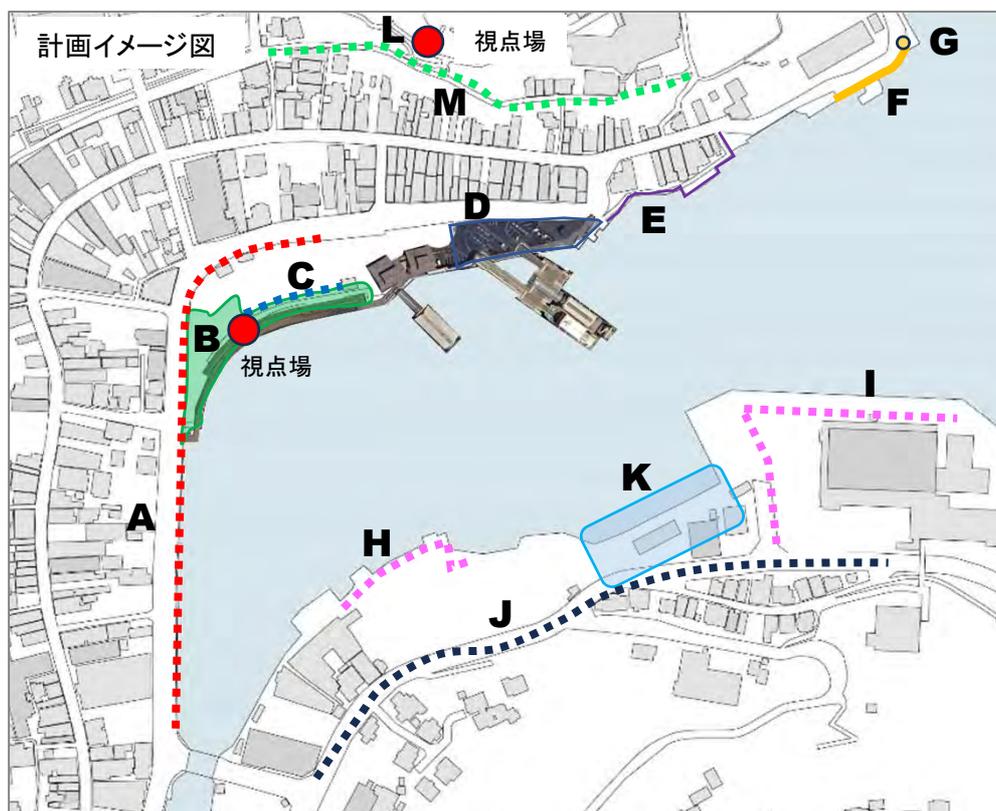
- ・危険な暗がりを払しょくし、市民が安全安心に暮らせる水際の環境形成に努めます。
- ・橋梁や水際の個性を活かし、水に囲まれたエリアならではの魅力を創出し回遊性をたかめます。

⑦民間の取組による夜景ランドマークの拡充

- ・点在する神社仏閣などの景観資源のライトアップ等を民間によって取組むなどさらなる平戸の文化的魅力の発信をめざします

4-2. 平戸湾周辺の夜間景観形成

崎方公園エリアの高台を視点場とする湾を眺める眺望夜景、平戸港交流広場を視点場とする海と平戸城のおりなす見あげの夜景を整え、それらの夜景を楽しむ広場やデッキの快適性と安全安心を創出します。市民が日常的に湾の周辺を快適に利用できるとともに、平戸湾夜景が旅の目的地となることをめざします。



場所	計画内容
A 海岸通り	既存照明の電球色LED化
B 平戸港交流広場	照明演出による安全安心と快適性確保
C 駐車場	海際遊歩道部の暗がりの払しょく
D 海岸通り	暗がりの払しょく
E 海際デッキ	手すり照明追加によるランドマーク化
F 海岸通り	カーブの明るさ感確保（手すり照明による）
G 迂行灯	視認を阻害する街路灯の改善
H 市役所駐車場	海側緑地への公共照明（低ポール灯）の配置による眺められる夜景への改善
I 文化センター	海側緑地公共照明（低ポール灯）の配置による暗がりの払しょく
J 城下通り	街路灯の色温度統一（電球色：2700Kもしくは3000K）
K 船着き場	夜景づくり（壁面・石垣などのライトアップ等）
L 崎方公園	視点場の環境再整備・色温度調整、和風庭園のライトアップ
M (仮称) ハーバービューロード	照明整備（手すり照明・低ポール灯・樹木ライトアップ 他）

1)眺望景観を整える全体イメージ

平戸湾を囲むように家々が建ち並び、高台には平戸城やザビエル記念教会などを望むことができる眺望は、まさに平戸ならではの景観です。

宿泊施設や商店が集積する旧町部側の高台である崎方公園付近を視点場と位置づけ、そこから望む「平戸湾眺望夜景」の形成に努めます。



2) 各部の修景イメージ

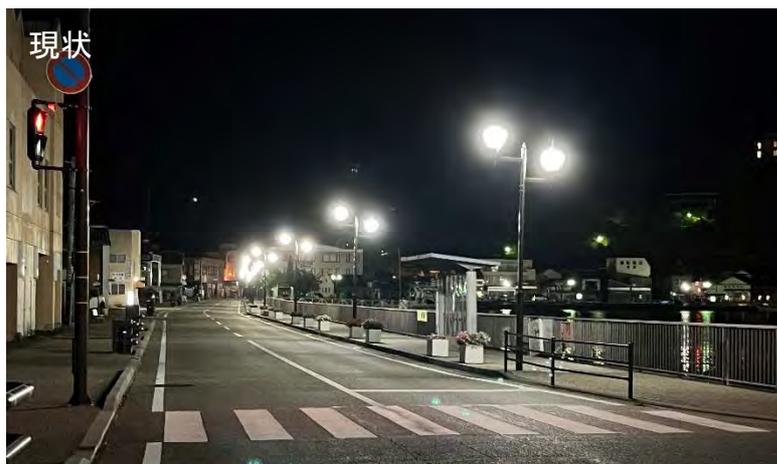
A) 海岸通り

① 既存照明の電球色化

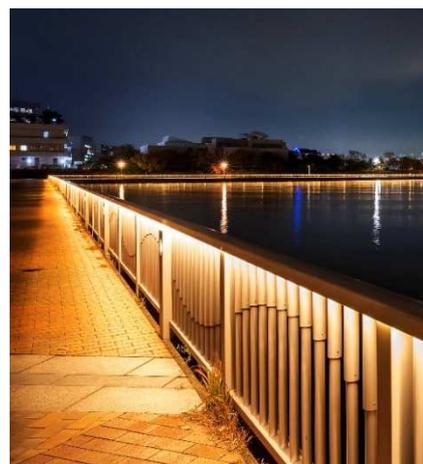
観光地の夜間景観にふさわしくない眩しすぎる白色光から、暖かな電球色で今よりもまぶしくないものに改修します。

② 手すり間接照明の追加

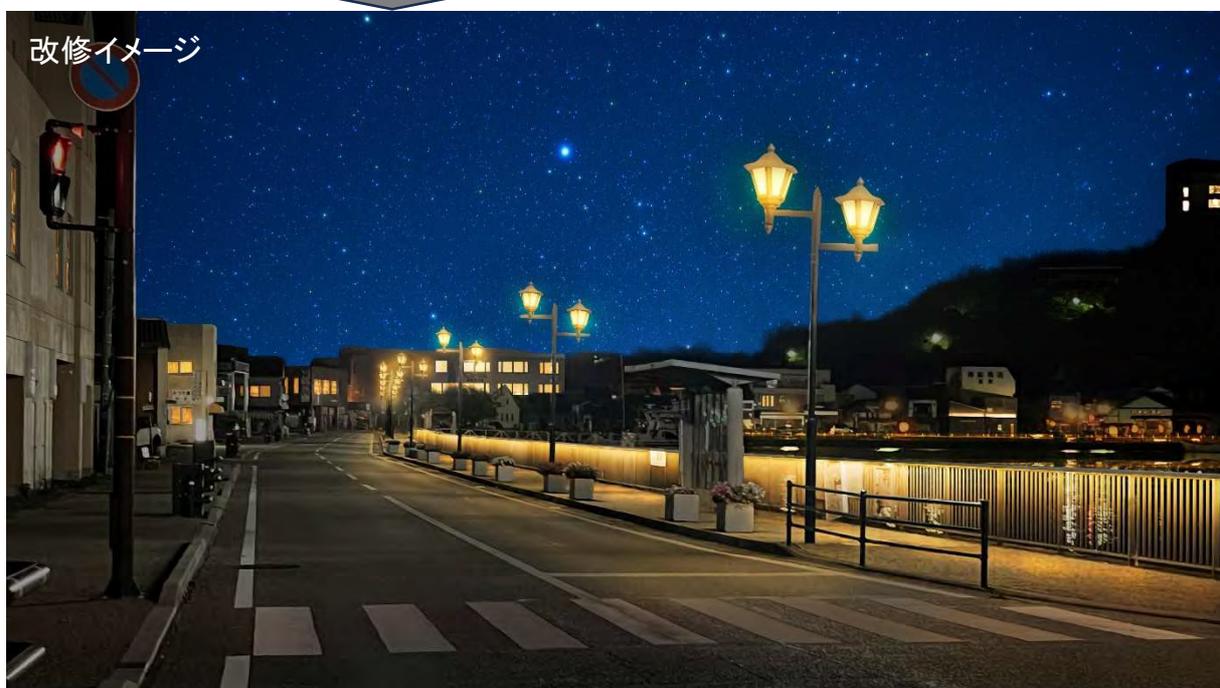
歩行者のスケールで路面の明るさを感じる低位置の間接照明がそぞろ歩きを誘発します。



現状



【参考】手すり間接照明



改修イメージ

【街路灯】

電球色（3000K～2700K）のLED電球（現状HID光源の明るさ1ランクダウン相当）への変更
もしくは色温度変換シリコンシートによる色温度変更

【手すり間接照明】

水に映り込む気色も楽しめるシームレスタイプのテープライトを笠木部分の下部に設置
路面の明るさにも寄与する14W/m以上の照明

B) 平戸港交流広場

①ライトアップによる安全安心と快適性確保

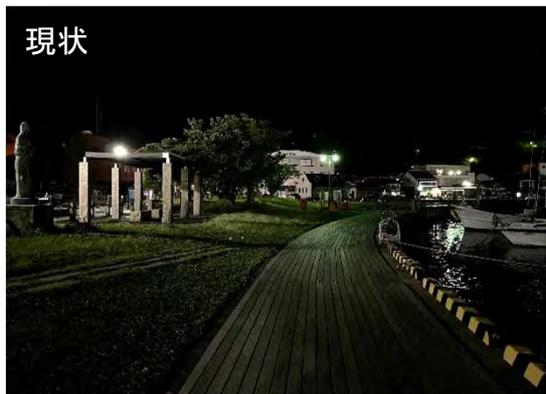
樹木や彫刻のライトアップは、鉛直面の明るさ感に大きく寄与し広場の暗がりを払しょくします。

②照明付きベンチ

海を眺めたり語り合ったりできる座れる場所は、夜の利活用には必須です。
照明を入れることで安心感が増し、座りやすくなります。

③ポールスポットライト(市販標準品)

路面を明るく照らします。



【樹木ライトアップ】2000ルーメン程度のスパイク式スポットライト。広角

【ベンチ間接照明】海を眺めるための装置。あかりを反射させて明るさ感も高まる。埋設型LEDラインライト

【ポールスポットライト】高さ4m程度のポールに2000ルーメン程度のスポットライトが3灯

【彫刻ライトアップ】正面のグランドレベルにスパイク式の小型スポットライトを設置。700ルーメン程度

【船舶ライトアップ】ポールスポットの1灯を利用しふんわりと照射

C) 交流広場駐車場海側ボードウォーク、H) 市役所駐車場、I) 文化センター海側

① 海際の遊歩道部の暗がりの払しょく

遊歩道沿いに下方配光の低ポール照明もしくは手すり間接照明を配置し、歩ける明るさを確保。

② 既存照明の色温度変更(3000K以下)

周辺と調和する暖かなあかりで風情のある環境へ改善。



【参考】低ポール灯



手すり間接照明



【低ポール灯】下方配光のLED低ポール灯。500ルーメン程度。2700K

【手すり間接照明】ドットレスタイプのテープライトを手すり笠木下面にLアングル等で設置。

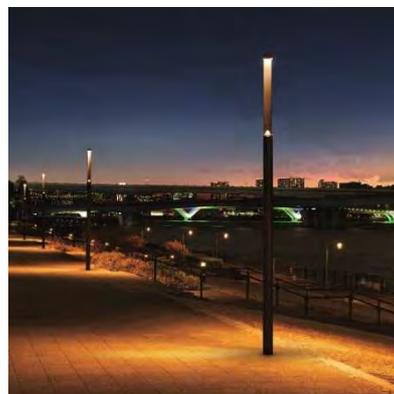
【ポールスポットライト】高さ4m程度のポールに2000ルーメン程度のスポットライトが3灯

【既存照明】色温度の変更（ランプ交換もしくは色温度変換シリコンを灯体内に挿入）

D) 海岸通り

①暗がりの払しょく

ポール照明の設置により、暗がりを無くす工夫を検討します。
路面を明るく照らします。



【参考】ポール照明

E) 海際デッキ

手すり照明追加によるランドマーク化(民間含む)



【参考】手すり間接照明照明

F) 海岸通り・・・カーブの明るさ感確保(手すり照明による)

G) 辻行灯・・・視認を阻害する街路灯の改善

辻行灯の姿を阻害してしまっている街路照明は、位置をずらすか撤去し、辻行灯のあかりが目に入るように改修。



L) 崎方公園

M) ハーバービューロード(仮称)

① 視点場までの園路・視点場の暗がりの払しょく

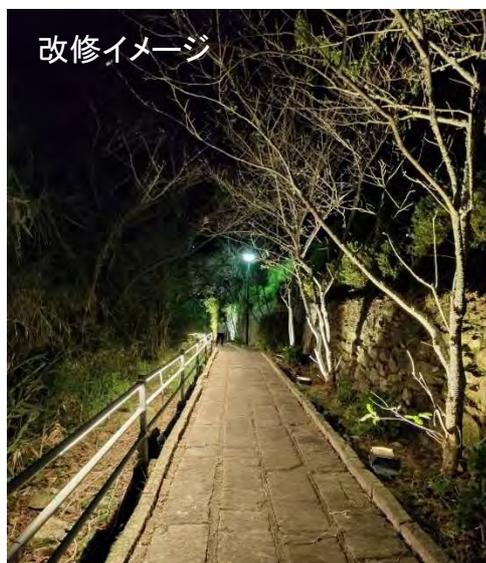
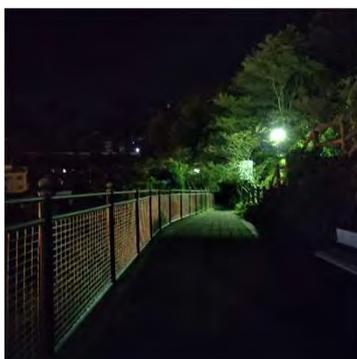
崎方公園下遊歩道を照らす足元照明と樹木のライトアップなどを新設します。

② 崎方公園下遊歩道の色温度変更(3000K以下)

既存照明のフィルター等による改善を検討します。

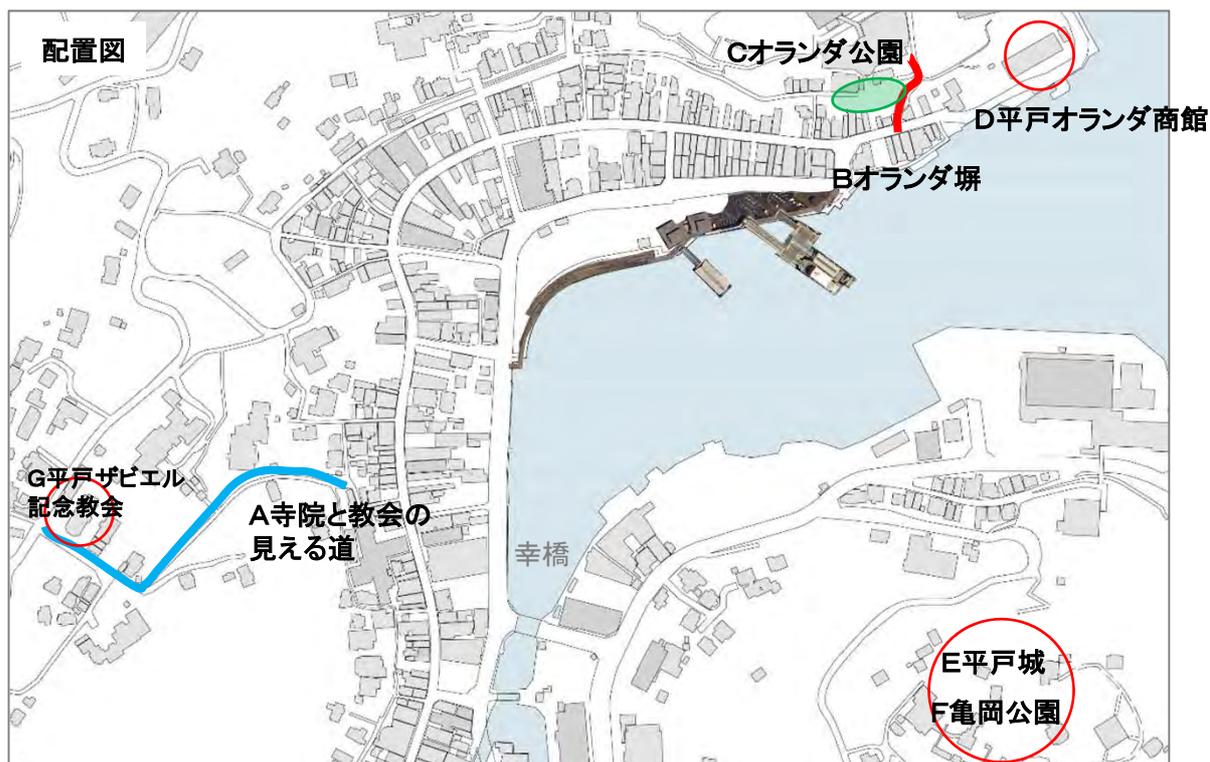
③ 和風庭園のライトアップ

樹木や景石を活かした陰影のある落ち着いた和の夜景を創出します。



4-3. 主要観光ポイントの夜間景観形成

観光地平戸を代表する観光ポイントは、夕刻から夜間にかけてもそぞろ歩きのポイントとなります。それらの大切なランドマークをライトアップし、平戸市ならではの夜の散策と歴史文化が楽しめる環境をつくります。撮影の楽しみがある常設のライトアップ演出をめざします。



場 所	計画内容
A 寺院と教会の見える道	石垣・白壁のライトアップ、辻行灯のライトアップ、竹林の演出
B オランダ塀	石塀のライトアップ、階段の照明
C オランダ公園	暗がりの払しょく・利活用に最適な環境整備
D 平戸オランダ商館	常設ライトアップ、イベント時のカラー使用のガイドライン化と遵守
E 平戸城	既にライトアップは完了している。
F 亀岡公園	遊歩空間の暗がりの払しょく。常設照明の魅力化。
G 平戸ザビエル記念教会	既にライトアップされているが更新時期には照明手法の見直しが望ましい。

A) 寺院と教会の見える道

現在は照明が弱く暗がりとなっている場所があるので、そぞろ歩きのできる明るさの確保が重要です。石垣の続く景観価値を引き出し、かつ文化財保護のルールにも則った恒久的な照明演出をめざします。



令和5年度・社会実験時の様子



令和5年度の社会実験時の「石垣ライトアップ」は景観的には美しく、アンケート結果も良かった。常設時には設置方法について十分に検討する必要がある。

◆検討すべき手法

【石垣・白壁のライトアップ】

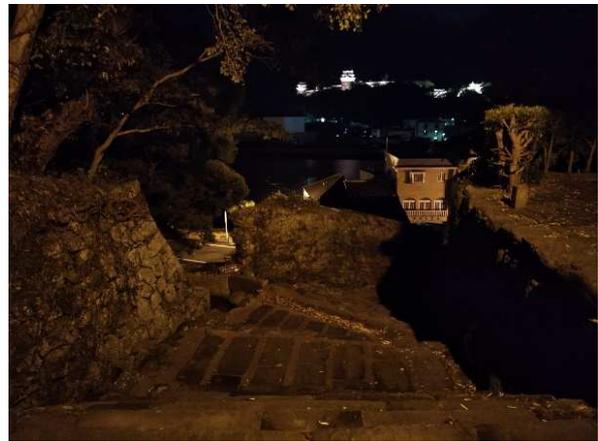
【石材辻行灯のライトアップ】

【竹林のライトアップ】



B)オランダ堀

現在は照明が弱く暗がりとなっている場所があるので、そぞろ歩きのできる明るさの確保が重要です。石垣の続く景観価値を引き出し、かつ文化財保護のルールにも則った恒久的な照明演出をめざします。



令和5年度・社会実験時の様子



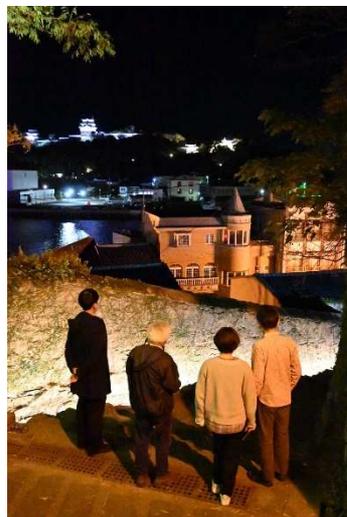
令和5年度の社会実験時の「石垣ライトアップ」は景観的には美しく、アンケート結果も良かった。常設時には設置方法について十分に検討する必要がある。

◆検討すべき手法

【堀のライトアップ】

【階段への置き照明配置】

【樹木のライトアップ】



C) オランダ公園

暗がりであったため使われてこなかった公園ですが、東屋もあり様々な利活用の可能性がある公園です。明るさを確保し地の利を活かした、重要なパブリックスペースとして活かすことをめざします。



D) 平戸オランダ商館

ライトアップ演出は完了しており、白色の壁面をシンプルに照らし上げています。



全体を大きな照明器具で照射する手法



壁面下から細かくライトアップする方法もあります。



原色のカラーや早い動きの演出は歴史的建造物はふさわしくありません



LED機材の進化によって、通常は白色で照射し特別な日やイベント時にカラー演出を行うことは普及していますが、歴史的建造物にふさわしい色彩を選ぶ必要があります。

E) 平戸城

ライトアップ演出は完了しており、白色と電球色が時間に応じて使い分けられています。カラー演出の色彩においては、意図やテーマを理解してもらえるしくみも重要です。

F) 亀岡公園

夜間の利用は特別想定されていないため、細部にわたって照明設備が整備されていません。将来的にそぞろ歩きの対象地とする場合は、ルートを想定した上でトータルな夜間環境形成が必要となります。



- ・公園内には、北虎口門や大手御門石垣など城跡遺構や復元遺構が各所に見られ、照明演出により魅力が高まる環境です。
- ・マキ並木やサクラ並木など、特徴のある緑が多数あり、樹木のライトアップも有効です。
- ・敷地エリアが広範囲なため、夜間景観として利用するルートを精査し、夜間ルートを確定したうえで、園路の歩行照明なども含めトータルな城址公園照明デザインを実施する必要があります。

【参考】



天守閣以外の園路や石垣も美しくライトアップされた熊本城
(熊本城HPより引用)

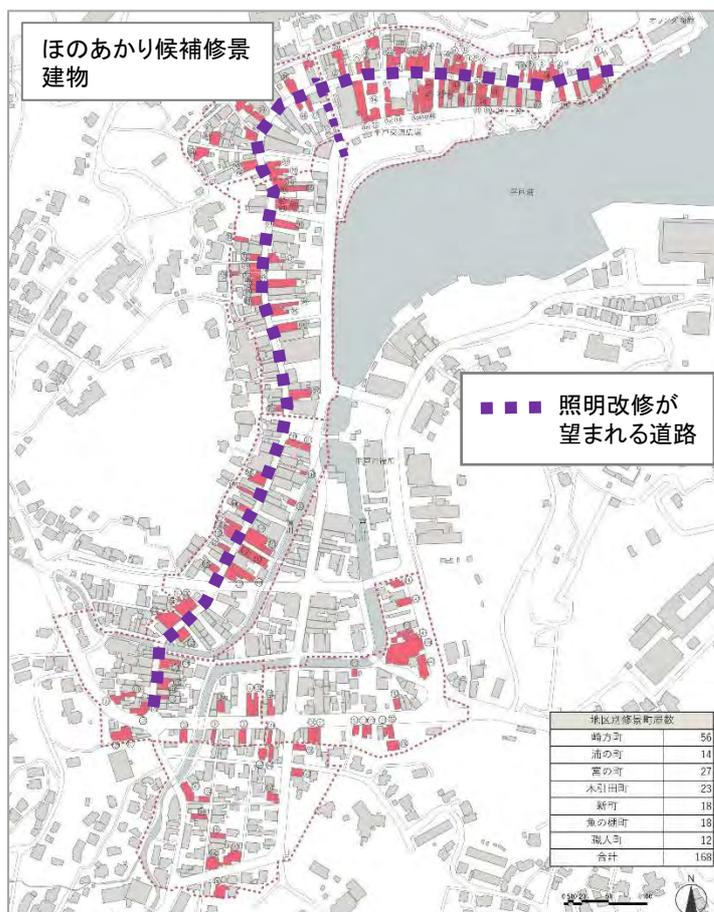


石垣のライトアップによって歩くこともできる鳥取城

4-4. 平戸城下旧町地区の夜間景観形成

歴史ある平戸城下旧町地区は、長年にわたる努力によって建物外観のリノベーションが実施され、他のまちには無い、美しいまちなみ景観が実現しています。

そのまちなみを活かした新たな誘客の手法として「平戸ほのあかり事業（民間）」が令和4年から平戸まちづくり運営協議会によって実施されています。民間建物のあかりの修景を活かし、エリアの魅力を最大化するためには公共照明の改善も必要です。



◆ほのあかり

歴史を感じるまちなみの魅力が伝わるような、優しい間接照明と低い色温度のあかりによる上質なまちなみ夜景を創出します。また、一階部分にはできるだけあかりを灯し漏れ光による安全安心をめざします。

◆公共照明

眩しさがきつい現状のナトリウム灯は、住居二階がまぶしいだけでなく、あかりの演出にもそぐわない状況となっています。景観修景された建築エリアでの道路照明は、下方配光の道路照明がのぞましく、本エリアでもLED化の更新の機会を利用し、まちなみに調和する配光の器具に変更が望ましいと考えます。

	場 所	計画内容
A	平戸城下旧町地区	168軒の修景町屋を中心に、5か年で50か所程度の照明演出町屋を創出する。特に、崎方エリアを中心に実装を進め、あかりの連なる様子を創出する（平戸まちづくり運営協議会によるほのあかり事業）
B	県道田ノ浦平戸港線	道路照明の光源改修（グレアが修景町屋にあたらぬ工夫） ※グレア：目に入る不快なまぶしさ
C	市道松浦資料館線	偉人像・マキのライトアップ、うで湯あし湯エリアの照明点灯（改修）
D	松浦史料博物館	階段部の夜間照明演出
E	路地	暗がりを払しょくする照明設置
F	職人町路地	狭い路地に適した照明設置

A) 平戸城下旧町地区・建物の照明

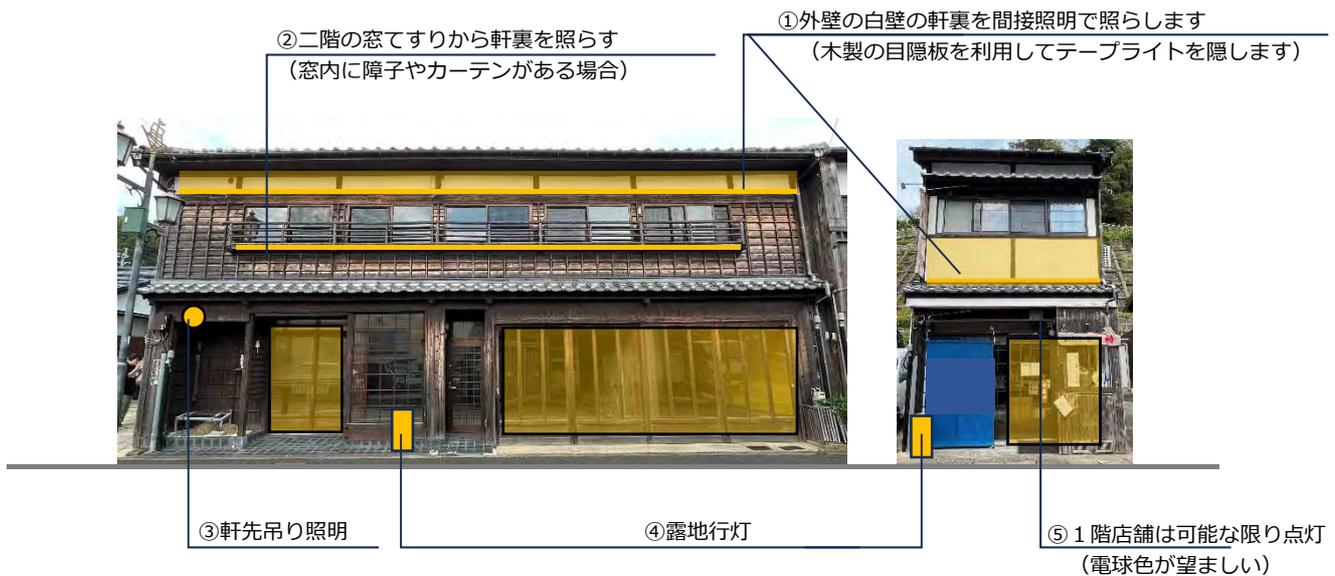
◆めざすべき「あかりのまちなみ」イメージ



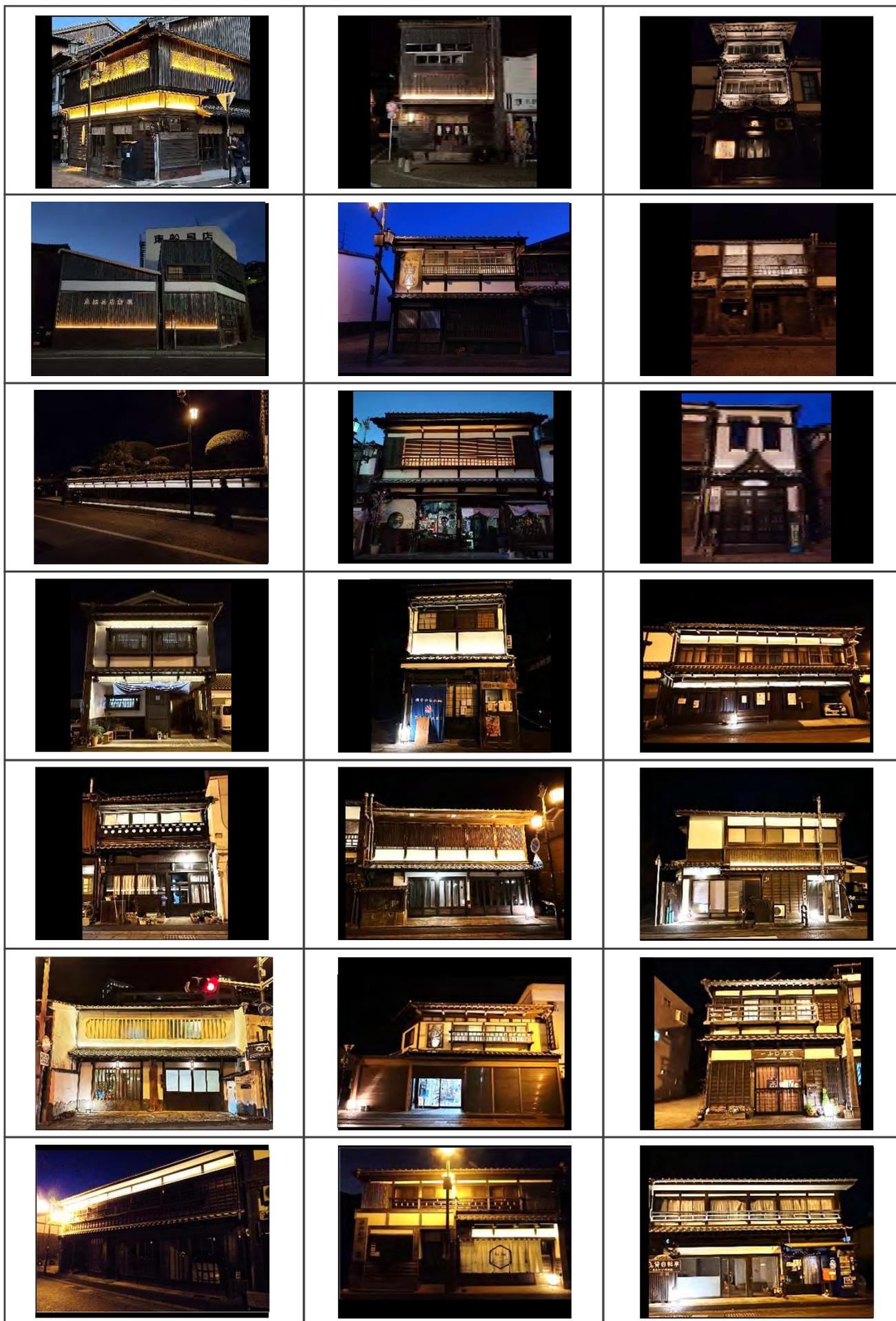
まちなみ修景によって整えられた建物外観の魅力を活かす「間接照明」と行灯や漏れ光を活かした絵になる夜間景観をめざします。
外観の改修ポイントである「白壁」「手すり窓」「庇」など個々の建物ごとの特徴を活かした演出をめざします。

◆照明デザイン手法の基本スタイル(例)

光源	: LED
色温度(光の色味)	: 電球色(2400K~3000K)
給電	: 外部コンセント差し(無い場合は協議)
電気代負担	: 建物所有者
点灯時間	: 17:00~22:00



◆令和4年～5年度に照明が設置された建物



B) 県道田ノ浦平戸港線 道路照明の改善

まちなみ修景が行われてきた平戸市中心部のメインロードには、デザインされたクラシックス
 タイルの街路灯が整備されていますが、拡散照明のため建物に強く当たっているため、建物ライ
 トアップ演出への影響は甚大です。

また、二階に居住している場合は、窓への差し込みが強く遮光の必要がある状況です。

ナトリウム灯が強すぎて効果がわからない建物



効果をはっきりわかる建物



◆実施すべき手法

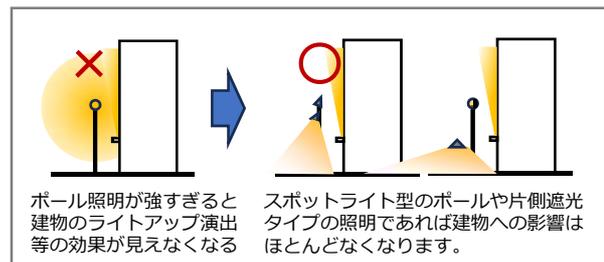
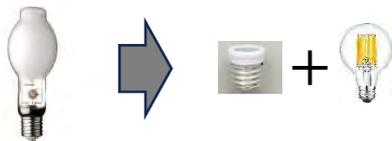
①両側ナトリウム灯の光源変更

オリジナルの照明器具であり、また南蛮イメージも
 あるため機材はそのまま継続使用も検討できます。
 光源のLED化と同時に、大幅に光束を下げ、既存灯体
 は「象徴としてのあかり」とすることもできる。

推奨：クリアLED電球 15W（白熱電球100W相当）

※口金の変更（E39→E26アダプター利用）

安定器撤去、200V対応の可否等を検討



ボール照明が強すぎると
 建物のライトアップ演出
 等の効果が見えなくなる

スポットライト型のポールや片側遮光
 タイプの照明であれば建物への影響は
 ほとんどなくなります。

②ナトリウム灯の歩道側灯体の遮光

①に加え、建物側の灯体内部のガラスパネルに
 遮光パネルもしくはシートを設置し遮光する。
 もしくは、LED光源を40W相当クリア電球とし
 ぼんやり灯るようにする。

③路面用スポットライトの追加

ポール上部にLEDスポットライトを共架し路面
 の明るさと明るさ感を確保する。

灯具の仕様：2700k、5000lm程度 30°~40°

※楕円配光も可能



C) 市道松浦資料館線(歴史の道)

平戸港交流広場から松浦史料博物館を結ぶ、平戸城下旧町エリアの海から高台へと続く主要な道。道沿いには平戸ゆかりの偉人像と平戸を代表するマキが列植されています。平戸らしさがにじみ出るこの道にはうで湯あし湯のあるポケットパークもあるので、夜間のそぞろ歩きのポイントとなります。



令和5年度・社会実験時の様子



イメージ画



令和5年度の社会実験時の本エリアでのライトアップは好評で、常設化の要望も高いものでした。マキや偉人像に光があたることで、鉛直面の明るさが増し、街路の安全安心感も高まります。

うで湯あし湯広場には照明設備があるものの、不点灯や不似合いなカラー変化が施されているので、設備の点検を実施し、まちの印象を整える必要があります。

計画内容	手法
偉人像のライトアップ	歩道路面にアッパーライトを埋設し照射
マキのライトアップ	植栽柵にスパイク式の小型スポットライトを配置。600lm程度・狭角
うで湯あし湯の照明	現状のプログラムを確認し、電球色での常設点灯に変更(固定色)
うで湯あし湯歌碑 他	機材の状態を確認し、ハロゲン電球の場合はLEDハロゲン型電球に交換
松浦史料博物館・階段部	樹木のライトアップ・石垣の演出(超小型照明・非埋設) 他関係者と協議の上実施検討。タイマーにて自動点灯。

D) 松浦史料博物館(民間)

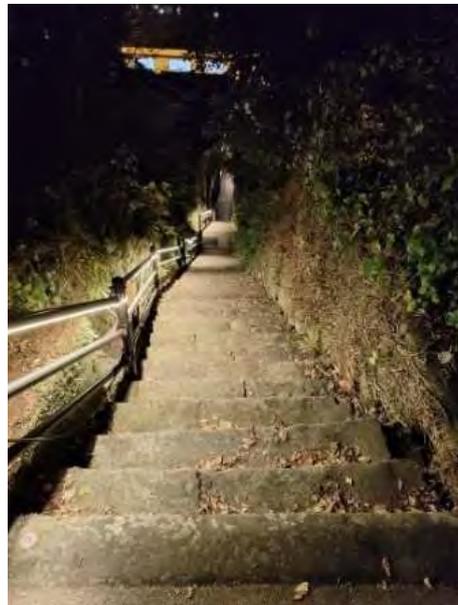
「歴史の道」の終点部にエントランスの階段が正対する施設のため、道からみあげた印象が観光地のイメージに大きく作用します。関係者と協議の上、正面の樹木ライトアップ等に取り組んでいただきたい施設です。



E) 路地(地蔵小路・順智院道・鍛冶屋小路など)

公共照明の設置が難しい路地には、ソーラー方式の照明もしくは手すりなどを利用した路面照明が最適です。

特に階段部には、安全安心な明るさ感を得ることができ、令和5年度の社会実験でも階段路地での効果が確認できています。

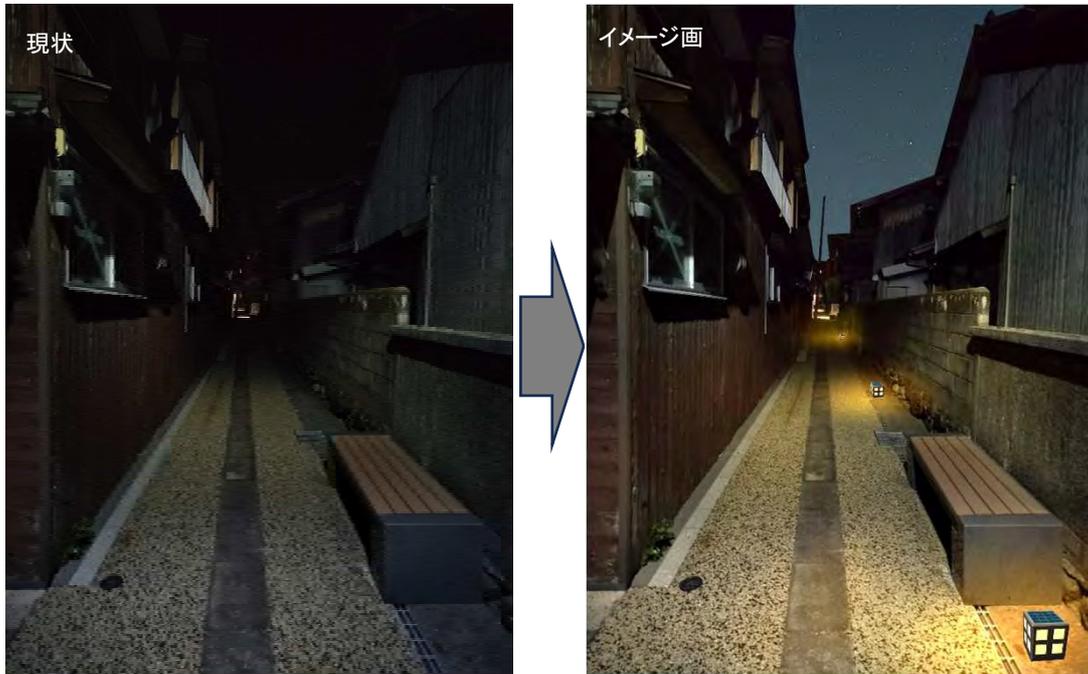


LEDテープライトによる手すり間接照明の社会実験の様子。
大きな明るさ感を確保できています。

F) 職人町路地

職人町エリアは、路地が狭くまた敷地境界が迫っているため、公共照明の設置が難しく、ソーラータイプの照明などによって、危険な暗がり解消することが望ましい状況です。

一般的にソーラー式の照明は光束が著しく低いので、普通の環境では暗すぎるものが多いのですが、本エリアは路地が狭く、周辺からの影響光も無い暗がりであるために有効です。



ソーラー式足元照明器具(参考)



高洲海浜公園 (浦安市)



長門湯本温泉 (長門市)

4-5. 路地の安全安心の確保

A) 大ソテツ通り

樹齢400年と言われる大ソテツから名づけられた江戸時代初期からある旧道ですが、照明設備が少なく暗がりが見受けられます。

社会実験でも実施した、壁や石垣などを利用して、鉛直面の明るさ感を増やす工夫は有効ですが道路上のため設置方法の検討が必要です。



◆検討すべき手法

①自然緑化壁面への投光

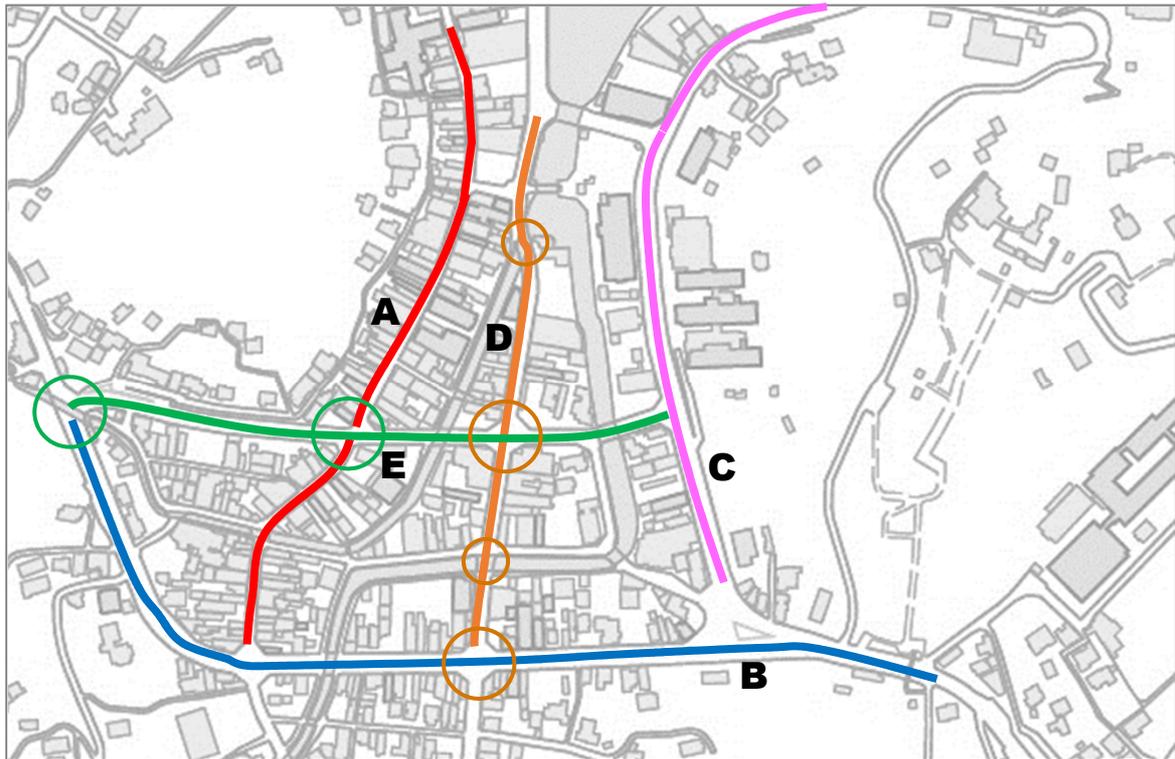
壁面の照射は、現有の環境を活かした魅力的な夜間景観の創出ができると同時に、大きな安心感が確保できます。

4-6. 主要道路環境の改善

現在の平戸城下旧町地区には、市民生活の安全安心と来街者の快適性向上の両面から、更新が必要な道路照明が多数見受けられます。

暗く危険な路地や、まちなみの美しさを阻害するような照明を改善し、快適で安全安心な誇りの持てる日常環境への更新を検討します。

本章では、そういった道路空間それぞれに関して将来イメージを共有します。



場 所	現在の道路の様子と問題点
A 県道田ノ浦平戸港線	伝統的なまちなみ修景されたエリア。修景町屋のファサード演出「ほのあかり事業」が進められている。道路照明はオリジナルのクラシックスタイル+ナトリウム灯。ナトリウム灯が強すぎて周辺の住宅2階がまぶしすぎる箇所がある。また「ほのあかり」の効果が見えないほど建物に光が当たっている。
B 市道亀岡・新町線	平戸大橋から中心市街地に最初に入ってくる道。街路灯はあるが間隔が広く暗さを感じる。また、マキの並木が印象的な道。冬季には民間によってイルミネーションが実施されている。
C 市道土肥町線、臨港線	白色の道路照明。マキの並木とツツジの緑化が整っているが夜景には活かされていない。
D 市道平戸志々伎線 (築地町周辺)	海岸通りへと続く南北の幹線。照明は少なく暗く寂しい印象。
E 市道亀岡・上町線	クラシカルなデザインの街路灯。光源は白色。

※ **A** については、4-4章に記載しているため、ここでは割愛します。

B) 市道亀岡・新町線

道路照明は設置されていますが、35m以上の間隔で千鳥配置（両岸交互に配置）のため徒歩での通行には暗い状況（一般的な歩道照明の間隔は20m程度）。道路照明の距離感を埋めるため、マキの木のライトアップを行うことで、鉛直面の明るさが増し、安全安心感は高まります。道路照明の色温度変更も重要です。



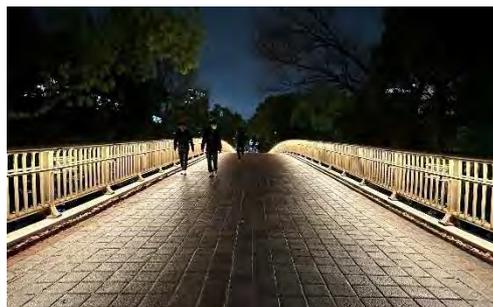
C) 市道土肥線・臨港線

市道亀岡・新町線と同様の状態ですが、どちらもマキの並木は美しく手入れされており、平戸らしさを表す大切な要素です。樹木のライトアップと光源の色温度変更を組合せ、観光地らしい雰囲気をめざします。



D) 市道平戸志々伎線 E) 市道亀岡・上町線

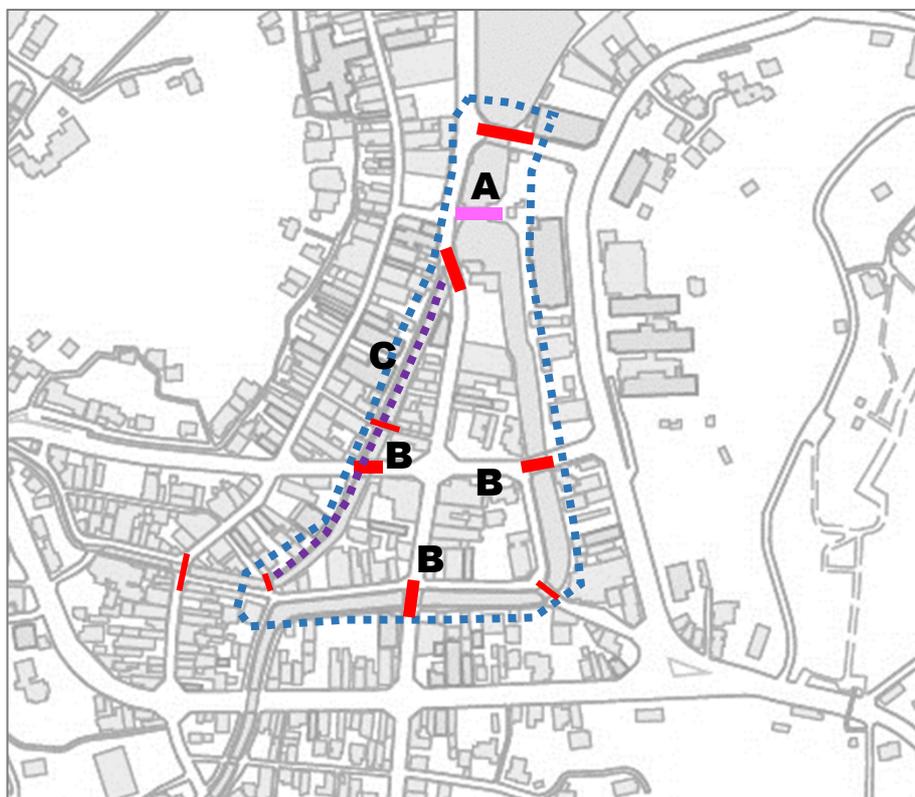
道路照明はありますが、本数も少なく歩道幅も小さいため照明柱が立てにくい環境です。交差点に下方配光の大型照明を配置し大きな明るさ感を見出すと同時に、橋梁の手すり照明など歩行者の明るさ感に寄与する照明の追加を検討します。



全く照明の無い環境であっても、手すり間接照明の効果は高いです。高欄にあたる光が大きな面照明となって安心感をもたらします。（神戸市）

4-7. 河川エリアの夜間景観改善

平戸城下旧町地区の南側は、築地の埋め立てにより水辺景観をつくっています。現在の河川沿いには照明設備が無く、橋梁にも十分なあかりがないので不安な環境となっています。水域という限られた条件の元、安全安心と水辺を活かした夜間景観を実現する手法を検討します。



場 所	現在の様子と問題点
A 幸橋	現状のライトアップは光量が幾分不足しており陰影に乏しい印象
B 各橋梁	すべての橋梁は暗がりとなっており、歩きたい環境ではない。
C 河川敷通路	ほとんどの通路は暗がりとなっている。

A) 幸橋

現在もライトアップはされていますが、目的地としてのインパクトが希薄です。
特別な演出のある橋としてアップデートし、観光ポイントとしてレベルアップをめざします。



国内の石橋演出の事例



カラー機材を使って、催事に合わせた演出を実施
錦帯橋（岩国市）



単色の投光器で照射（幸橋と類似）ただし、周辺の手すり演出で一帯がフォトジェニックになっている。
眼鏡橋（長崎市）

海外の石橋演出の事例



石橋の側面に映像を投影。（リヨン・フランス）



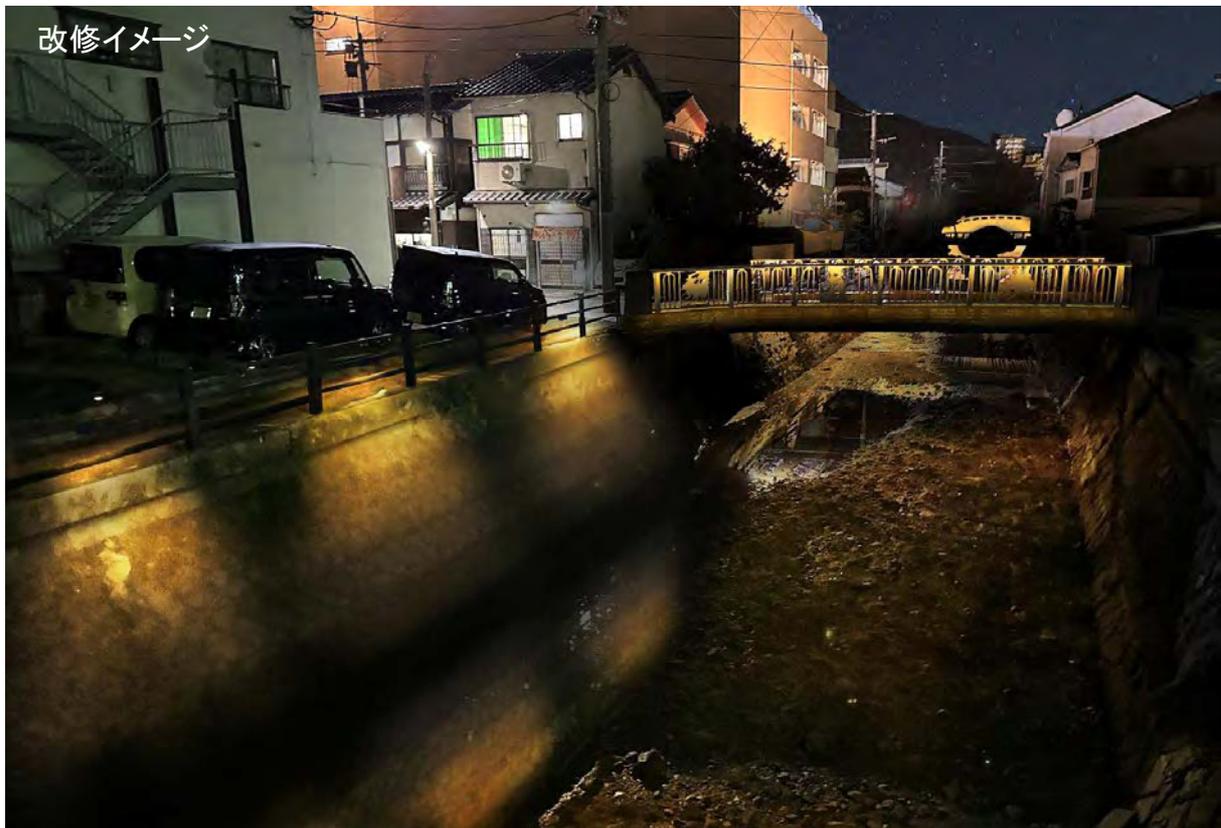
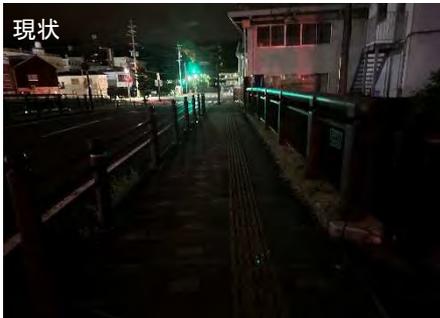
アーチの内側にカラー照明を溜めて印象的な風景をつくる。（ミネアポリス・USA）

◆実施すべき手法

【ライトアップ機材の更新】

B)各橋梁 C)河川敷通路

河川周辺の通路は、照明設備がなく、暗がりとなっています。
橋梁や道路の手すりを利用し、足元の明るさ確保をめざします。



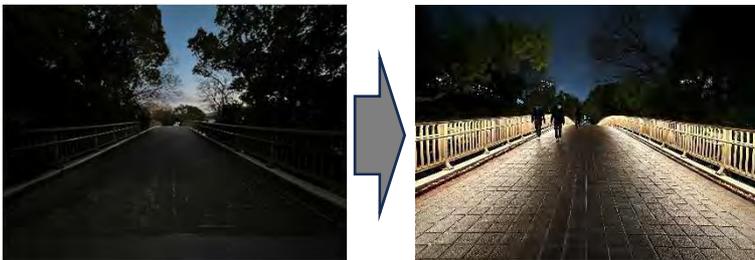
◆手すり照明の有効性

手すり照明は、わずかな電力量で足元に大きな安心感のある明るさを供給します。特に幅員がせまい遊歩道環境では、有効な手法です。

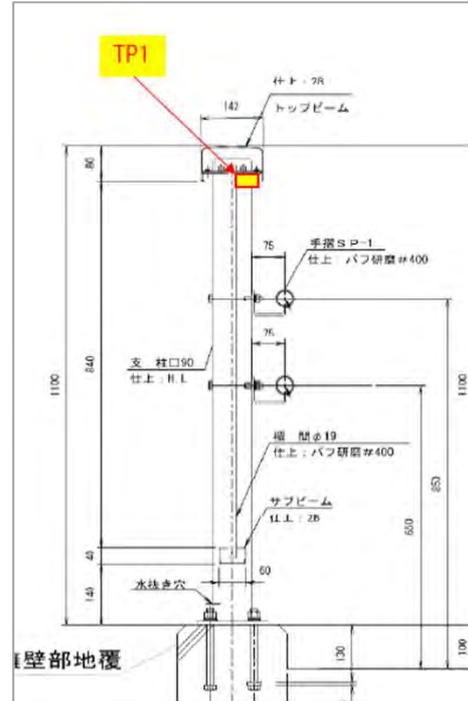
また、電源供給が難しい環境の場合は、明るさはわずかにはなりますが、ソーラー足元灯も有効です。



手すりメーカーから発売されている後付け手すり照明



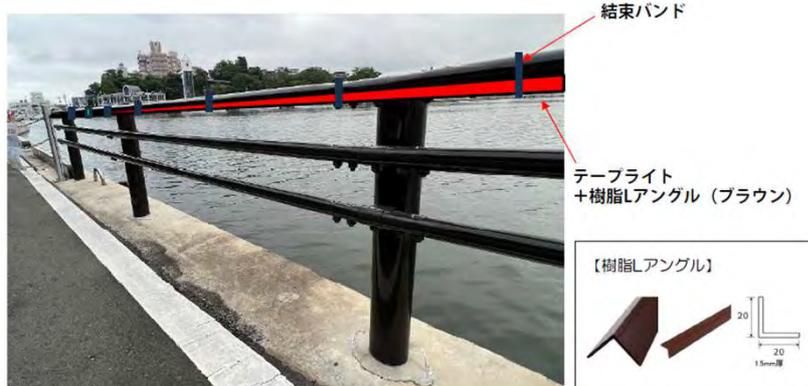
既存の転落防止柵の笠木でも手すりでも設置が可能



一般的な転落防止柵への手すりテープライトのおさまりイメージ

◆手すり照明の実装例

設置事例



■設置事例



点灯時



↑電源BOXを約10mに1個設置

4-8. 民間の取組による夜景ランドマークの拡充

平戸市内には、亀岡神社や寺院と教会が見える道、さらには神社仏閣や庭園など、景観資源である民間施設が多数点在しており、豊かな歴史文化を伝えるものばかりです。

これらの建築物の中にはライトアップが実施されているものもありますが、さらなる民間によるライトアップの取り組みによって、夜景ランドマークの拡充を図り、オール平戸での夜間の魅力づくりが促進されるように検討していきます。